

急がばまわれ

研究テーマ

偶然現象を数学的に解析する確率論という分野の研究を行っています。コイン投げなどに代表される偶然現象の中に見られる普遍的な法則を、微積分やルベーグ積分、関数解析といった解析学を駆使して明確に定式化して証明する、ということを行っています。

研究の道へ進んだきっかけ

もともと数学の研究を行いたいと思って大学の数学科に進学しました。大学に入れば確率論とは異なる分野に興味がありましたが、大学3年次に受講した確率論やルベーグ積分の授業がとても面白く感じられて、もっと勉強したいと思ひ、確率論の研究室の門を叩きました。

研究者になってよかったと思うこと

好きなことが出来る点でしょうか。最近は大学の先生も何かと忙しく、ゆっくり思索に耽るというのがなかなか難しいです

が、それでも自分の興味ある問題を自由に考えることが出来るのは嬉しいことです。ただ、研究は楽しいことばかりではなく、分からないことや計算の失敗などで落ち込むことも多いです。

座右の銘

「急がばまわれ」焦らず着実に、ということをもっとにしています。(近道しようとして失敗したことがいろんな面であったので...)

研究とプライベートの両立で工夫していること

2015年3月に出産したばかりで、正直なところ今は研究とプライベートがほとんど両立できていません。子を預けている間は仕事に集中するようにしていますが、それ以外ではほぼ育児中心の生活で、なかなか研究のためのまとまった時間が取れていません。今はとにかく体調を崩さないように気を付けています。(が、たびたび一家で風邪などに罹っています...)

My Hobby

読書と音楽鑑賞です。数年前からクラシックを聴きに出掛けたりしています。京都には素晴らしい交響楽団があって嬉しいですね。

BEST SHOT

我が家のアイドル、二匹の猫です。自宅の窓辺に座っていて、前の道を通る人たちの人気者になっています。



矢野 裕子

YANO Yuko

京都産業大学 理学部 准教授
専門分野: 確率論

略歴

1999年お茶の水女子大学理学部数学科卒業。2005年お茶の水女子大学大学院人間文化研究科複合領域科学専攻修了。博士(理学)、お茶大、立命館大、京大での研究員、助教を経て、2012年京都産業大学理学部准教授に着任。

人生の転機になった一冊／学生に薦めたい一冊

人生の転機になった本は、伊藤清先生によるインド・タタ研究所でのレクチャーノートです。大学院のゼミで読み、大きな刺激を受けました。

未来の研究者へ一言

納得するまで考え抜くこと。妥協しない。

最近の主な論文・評釈

- K. Yano and Y. Yano, On h-transforms of one-dimensional diffusions stopped upon hitting zero, In Memoriam Marc Yor - Seminaire de Probabilites XLVII, 127-156, LNM 2137, Springer, 2015.
- Y. Yano, A remarkable sigma-finite measure unifying supremum penalisations for a stable Levy process, Annales de l'Institut Henri Poincare Probabilites et Statistiques, 49 (4), 1014-1032, 2013.
- T. Fujita and Y. Yano, Special values of the Hurwitz zeta function via generalized Cauchy variables, Kyoto Journal of Mathematics, 52 (3), 465-477, 2012.

研究紹介

伊藤の周遊理論に基づきマルコフ過程の汎関数に関連する極限定理の確立とその応用について研究しています。最近には特に、一般化逆正弦法則と処罰問題の一般化を考察しています。詳しくは、大学院理学研究科研究紹介にインタビュー記事があるので、そちらを参照してください:

●http://www.kyoto-su.ac.jp/graduate/g_sc/g_ma/kenkyu/yano.html

